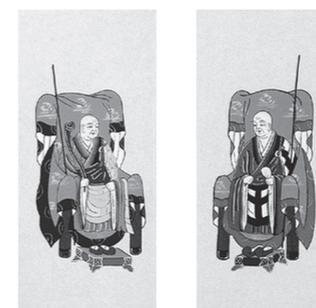


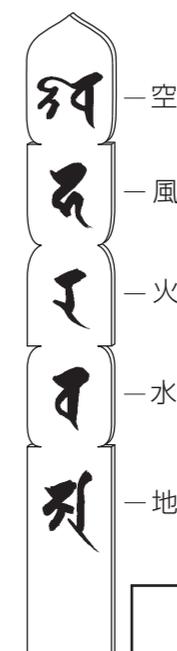
設問1 次の設問で内容の正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。

○×記入欄

- 例題 全日本宗教用具協同組合が定める仏壇の日は毎月27日である。
- 問1 釈尊が悟りを開いた12月8日は灌仏会かんぶつえと呼ばれる。
- 問2 禅を中国に伝えたのは達磨だるまである。
- 問3 日本に仏教が伝来したのは奈良時代である。
- 問4 平安時代には仏具などを作る職業が確立していた。
- 問5 親鸞は法然の弟子である。
- 問6 融通念仏宗の本山は京都市左京区にある知恩院である。
- 問7 豊山派・智山派は日蓮宗の教えを引き継ぐ法統である。
- 問8 本願寺が西本願寺と東本願寺に分かれたのは江戸時代である。
- 問9 江戸時代には真言宗の慈雲じうんにより戒律復興運動が行われた。
- 問10 明治時代に制定された修身書（教科書）では「ソセンヲタツベ祖先を尊べ」と仏壇を祀ることが教えられていた。
- 問11 如来の姿のあり方は三十二相八十種好はちじゆしゆごうでまとめられている。
- 問12 右の脇侍は真言宗のものである。
- 問13 観音菩薩は『観音経』と共に広く信仰されてきた。
- 問14 卒哭忌そっこうきは一周忌法要にあたる。
- 問15 お盆の間に僧侶がお経を上げに檀家を回ることを棚経と呼ぶ。
- 問16 三帰依文さんきえもんとは仏法僧に帰依することを誓うものである。
- 問17 法然は『般若心経』『無量寿経』『観無量寿経』を浄土三部経とした。
- 問18 右のような木製のものを卒塔婆そとうばと呼ぶ。
- 問19 儒教で没後25ヶ月後に行われる大祥忌が仏教での三回忌となった。



問12



問18

採点欄

--	--

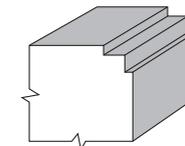
(前頁よりの設問の続き 設問1 次の設問で内容の正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。)

○×記入欄

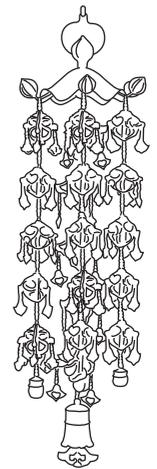
- 問20 えんづけきんぱく 縁付金箔製造はユネスコ無形文化遺産に登録されている。
- 問21 仏壇公正競争規約において「檜葉」ひば「米檜葉」べいひばは「檜」の表示ができない。
- 問22 仏壇公正競争規約ではカシュー樹脂塗料で仕上げた製品は「漆仕上げ」の表示が可能である。
- 問23 仏壇公正競争規約の金仏壇の原産国表示では木地と塗り、宮殿、彫刻が海外製で、
- 問24 右の写真にあるような形(面)もっこもっこうを「木瓜」と呼ぶ。
- 問25 油分を含む漆で仕上げることを呂色仕上げと呼ぶ。
- 問26 タモは北海道でも産出される木材である。
- 問27 仏壇公正競争規約において「厚板貼り」とは6mm以上の無垢板を貼ったものである。
- 問28 本紫檀は南米で産出される伝統的な唐木材料である。
- 問29 突き板とはスライサーで作られた天然木たんぱんの単板のことであり、
仏壇公正競争規約における「薄板貼り」の「薄板」のことである。
- 問30 右の面取りは銀杏面ぎんなんめん/ぎんなめんである。
- 問31 右の吊る仏具を「輪灯」と呼ぶ。
- 問32 右の五具足は浄土真宗本願寺派のものである。
- 問33 右の珠数は浄土宗のものである。
- 問34 浄土真宗では法名の上に釋を付する。
- 問35 ロストワックス鑄造とは双型鑄造のことである。
- 問36 香原料のカモミールはキク科の植物である。



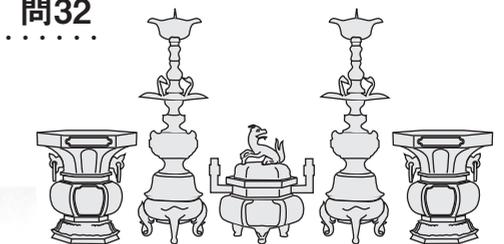
問24



問30



問31



問32



問33

採点欄

--	--

(前頁より設問の続き 設問1 次の設問で内容の正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。)

- ×記入欄
- 問37 右の写真は和蠟燭を作っているものである。
- 問38 お酒を供えるための神具を瓶子へいじと呼ぶ。
- 問39 仏壇公正競争規約は公正取引委員会と消費者庁が認めた業界のルールである。
- 問40 「原産国表示」は仏壇公正競争規約における必要表示事項ではない。
- 問41 特定商取引法ではお客様のお宅への訪問時に「氏名等の明示」が定められている。
- 問42 「分骨証明書」とは家庭などで分骨祭祀された遺骨を墓地や納骨堂に納める際に必要となる証明書である。
- 問43 全宗協が制定した祈りの日は3月27日である。



設問2 次の設問の語句で正しいものには○を、間違っているものには×を下の記入欄に書いてください。

例題 真言宗の宗祖は《空海》である。

釈尊が入滅したのは紀元前4～5世紀とされ、大乘仏教は釈尊の遺骨を祀る《① 菩提樹》を中心にして生まれたという説がある。大乘仏教は全ての人が仏になることを説くが、『法華経』は大乘仏教を代表する経典であり、釈尊の教えを引き継ぎながら、《② 造塔による成仏》も説く。

天台宗の開祖である《③ 恵果けいか》は、『法華経』を仏の教えの中でも最高の経典と位置付け日本では《④ 聖徳太子さんきょうのぎしよ/さんきょうぎしよ》が『三経義疏しょうまんぎょう』を著し、『法華経』『勝鬘経ゆいまぎょう』『維摩経』の解説を行っている。

日本に天台宗を伝えた最澄は《⑤ 高野山に金剛峯寺》を創くが、その教えの中心は『法華経』の教えに基づき、「すべての人が仏になる」というものであった。

鎌倉時代になると『法華経』を国の柱とする教えを弘め『立正安国論』を著した《⑥ 日蓮ちまた》が登場し室町時代になると『法華経』の教えは特に町人の間に広がり京都は「題目の巷」と呼ばれるほどになった。

法華宗の文化は町衆文化とも呼ばれ、江戸時代にかけての工芸家《⑦ 本阿弥光悦》は代表的な法華の徒であり、徳川家康から京都・洛北鷹が峯に土地を与えられ、法華の徒による芸術村を築いている。

- 設問2 ○×記入欄
- | | | | | | | |
|----------------------------------|-----------------------|----------------------------------|-----------------------|----------------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 |
| <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

採点欄

--	--